

給与計算の前処理だけで終わらせない！ 勤怠管理ソフトで労働環境を「見える化」しよう

昨今、残業代不払いなど労使間のトラブルに関する報道を目にする。よりよい労働環境をつくるためには、勤怠管理において従業員一人ひとりの勤務状況をきめ細かく把握することが重要だ。その業務を効率的に行えるツールが、OBCの「奉行V ERPシリーズ」に新しくラインナップされる。

従業員の労働時間を的確に把握することは企業の重要な責務だ。厚生労働省が策定している「労働時間の適正な把握のために使用者が講ずべき措置に関する基準」では、会社が従業員の労働日ごとの始業・終業時

刻を確認しタイムカードやICカードなどを使って記録する必要があると謳われている。また最近「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉で、労働時間の見直しを推進する動きも活発化している。

タイムレコーダからデータを取り込んだ「就業奉行V ERP」の集計画面

商品名：就業奉行V ERP
発売日：2008年8月上旬
価格：68万円～(税抜)

* 2008年9月末まで内部統制支援キャンペーンにつき
Single Editionのみ **特別価格33万円**(税抜)で提供

勤怠管理は、単に給与計算を行うための業務と捉えられがちだが、「個々の従業員がいつどんな理由で残業や休日出勤したか」といった分析も行い、より適正な労働環境の構築に役立てたいものだ。こうした労働時間のきめ細かな管理を効率的に行え

るシステムが、2008年8月上旬に発売されるオービックビジネス

● **企業個々の就業規程に柔軟対応**
「就業奉行V ERP」は、勤務形態に合わせた柔軟なシステム設定・運用を行える点が大きな特徴。「勤務スケジュール」を登録してタイムレコーダのデータを読み込めば、勤務時間や超過分の労働時間などが自動算出され、画面上でチェックできる。

例えば、繁忙の差が激しい業務では、所定の勤務時間を繁忙期は長く、閑散期は短く設定することで時間外労働の削減とコスト抑制を実現する「変形労働時間制」が注目されているが、実際に施行してみると閑散期に残業せざるを得ないこともある。こうした場合でも「就業奉行V ERP」なら手間をかけることなく超過分の時間を算出することができる。

また、企業が個々に定めた各種特別休暇を加味した管理や、付加条件設定で「5分以内の遅れなら遅刻を免除」「1時間以上前に出社した場合

例の追加も可能になっている。

● 修正履歴は画面上で確認

「就業奉行V ERP」は、企業経営の重要テーマとなっているコンプライアンスや内部統制を十分考慮し、勤怠管理者が始業・終業時間などを変更する場合にデータを直接修正するのではなく、画面上で修正履歴を確認できるような形式を取り入れた。従業員が個々の勤務状況をWeb上で確認できるオプションも追加される予定なので、勤怠情報の「見える化」を実現できる。

平日残業、休日出勤といった種別ごとの労働時間や各種休暇の取得回数などもきめ細かく分類。もちろん、集計データは給与奉行などの給与計算システムで活用することができる。

労使間のトラブルは社内の士気だけでなく企業イメージや信用の面にも少なからぬ影響を及ぼす。そうしたリスクを回避するために、労働時間管理のシステム化に積極的に取り組むべきだろう。

お問い合わせ先

株式会社オービックビジネスコンサルタント
東京都新宿区西新宿6-8-1 住友不動産新宿オークタワー
URL：http://www.obc.co.jp/